むすび

— 笑顔あふれる明るい未来を目指します —

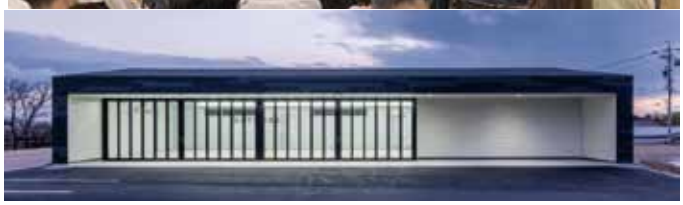
紡 心をつむぐ あしたを織る

HP

2024年7月発行　編集発行：公益財団法人あすて　豊田市本町本竜43　TEL(0565)52-0362

金KOBA竣工記念・河合満氏 講演 & 削り初め

ものづくりは未来をつくる



金属加工を通して社会貢献をするための施設「金KOBA」の竣工を記念して4月20日（土）に河合満氏（トヨタ自動車㈱Executive Fellow）をお招きし、「ものづくりは未来をつくる」と題して講演及び当財団豊田理事長と共に削り初めを行っていただきました。以下、講演内容の要約。

◆ものづくりがおもしろくてしょうがない！

昔の現場は暑くても簡単に水が飲めないような環境で、「ヘタクソ！」と怒鳴られながら先輩のやり方を観察して、だんだんと技能を自分のものにしていった。そのような厳しい環境で、なぜ頑張れたのかといえば、それは「ものづくりがおもしろくてしょうがない」「やればやるほど奥が深い」から。また、ストレスを溜めない、反省はしない、課題が見つかったらそれに向かうだけ、という気持ちでやってきた。

私は今も本社工場の事務所の一角に場所をもらっている。それは、職場が乱雑になってきたら、「何か変だな」と気づくように、常に現場のにおいや雰囲気を感じていないと勘が鈍るため。

◆ものを自分で作る人が少なくなっている

Z世代にも優秀な人がたくさんいることは確かだが、ものは自分の手を使って作ってみないと分からないことがたくさんある。今や工業高校でさえ、AI化を進めている。AI化が進んでいる今だからこそ、余計に手を使ってものを作る機会を作ることが必要。なぜなら、自働化は、匠の技を数値化すればできることだが、ものづくりの原理原則、進化の過程を知らなければ、AIの誤りを見つけることはできない。AIという道具を人がどう活かすか、管理するかが大切である。そういう意味でも人の手によるものづくりを目指そうとするあすての金KOBAにも期待したい。

◆多様化する時代の人材育成

旧車という原理原則で動く車をレストア（復元）することにより高い技能を育成・伝承できる。

今は、100年に一度の大変革の時代。水素、EV、自動運転など、新モビリティによる激しい競争の中でのものづくりである。しかし、勝ち負けがあるから、人が挑戦し、成長できる。どんな時代が来ても人が育っていれば、乗り越えられる。今こそ、どんな変化にも対応し続ける強いものづくりを支える人材育成が　必要だと強く思う。

◆金KOBAにて工作機の削り初め

↑旋盤・豊田彬子理事長

↑フライス盤・河合満氏

ものづくり

シニアロボコン（60 歳以上、自作のモーターロボットによる競技大会）

AKIKAN CUP 2024 初開催！

60 歳以上の人が、自ら開発したロボットを使ってリサイクルごみの分別の技を競う「AKIKAN CUP」が 5 月 25 日㈯に行われました。この大会は今年度から本格的にものづくりによる社会貢献を目指すあすてが初めて開催するもので、応募者 6 名（64～81 才）により熱い戦いが繰り広げられました。

【分別する物】空き缶、プルタブ、ペットボトル、キャップ、フィルム

【ロボットの製作ルール】

・本体：５kg以下、縦・横・高さ各 50cm 以内

・動力：乾電池または充電式バッテリー

・モーター：4 つまで使用可　・使用材料：自由

【対戦方法】2 名ずつの総当たり戦。5 分以内で種別、個数により点数式。コートの広さ：1.8m×0.9m

【結果】

優　勝：加藤鉱一

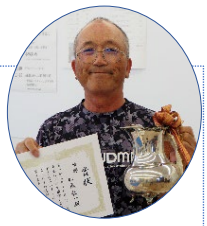
準優勝：成田光良

特別賞：竹内一良

声

「共に喜び合うために全力投球」

優勝　加藤鉱一さん



最初から目標は「優勝」でした。

というのも日ごろ指導員をしている豊田少年少女発明クラブのクラブ員が、昨年度「少年少女創造コンテスト」で全国 1 位を受賞できたので、自分も何かに優勝することで、子ども達と喜びを分かち合いたいと思ったからです。今は目標が達成できたことがうれしく、安堵しています。

今年 1 月の説明会の後、早々にアイデアを練り、効率を考えて「ブラシとチリ取り」という方向性で設計図を起こし、製作に取り掛かりました。

↑優勝作品「ホルスタイン　ルンバ」

思うように動くロボットを作るために細部までこだわり、300 回以上の練習の中で改善を重ね、動かす訓練をして臨みました。

Collina Naturale（自然の丘）

開所式 4/6 ㈯

「はじめの会」にて　式　と　記念植樹

（豊田理事長＆鳥本運営委員　左上→）

ユニークな活動で

みんなが楽しく集える「場」に

↑花の管理、除草活動

開所以来、運営委員会が中心となって、各部門の活動が盛んに動き始めました。花や野菜の苗の植付け、水やり、除草活動の他に、月一回の読み聞かせ会、多目的に利用できる竹ドームの作成などがあります。みんなが楽しく集える「場」を目指してボランティアはがんばっています！

一緒に活動する仲間を募集しています！

↑多目的利用の竹ドーム作成

↑親子でサツマイモを植えたよ

↑草刈り

↑第 2 日曜の朝に木陰で「読み聞かせ会」を開催

むすび

2024年11月発行

— 笑顔あふれる明るい未来を目指します —

心をつむぐ あしたを織る

編集発行：公益財団法人あすて　豊田市本町本竜43　TEL(0565)52-0362

ものづくり

【7/28からくりグループイベント】

あすてからくりグループによる「スイングからくりに挑戦」が開催されました。参加者が普段触れることの少ない「からくり作品」を前に原理を理解する様子や、糸のこ盤を前に真剣に作業する様子が見られました。また、ボランティアが安全に配慮しながら楽しくからくり作りをサポートしている様子も伺えました。

【8/5 間伐材有効活用プロジェクト】

間伐材有効活用プロジェクトで製作したベンチの寄贈式が特別老人ホームとよた苑で行われました。

（寄付先：老人福祉施設・障がい者福祉施設・児童養護施設　計10脚）

【 10/19 未来学校 】

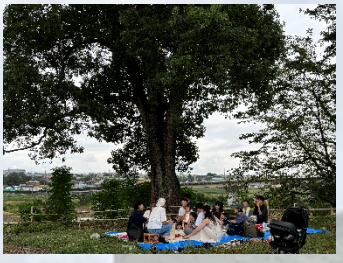
未来学校 現場のプロから学ぶ～工具の使い方を知ろう！学ぼう！の第1回目が行われました。今回は「削る」をテーマに、工具のヤスリの扱い方や姿勢等を学びました。注目するポイントが沢山あり、参加者は興味深く参加している様子が伺えました。

※全6回予定　11/15まで参加者募集中

Collina Naturale（自然の丘）

今年の夏もたいへん暑かったですが、ボランティアさんたちが暑さに負けず、花壇の手入れや除草作業をがんばったおかげで秋の花が美しく咲いています。

Collinaの小さな命たち。足を止め、観察してみてください。



Topics

9 月 29 日 Collina Naturale を知ってもらうイベント「マルシェドコリーナ」を開催しました。テント広場でのマルシェや、自然に触れることのできる企画、キッチンカーの出店などがあり、開放的な雰囲気の中、参加者は穏やかにイベントを楽しんでいる様子でした。大きな木の下での読み聞かせや、クローバーの花摘みなど、特に親子でのんびり過ごしている様子は微笑ましかったです。
（株）アドヴィックス課長会の方々もボランティアとしてイベントを手伝ってくださいました。

8 月の虹＆名鉄電車

8 月中国植林地「あすての森」で植えた
楊柴（ようざい）の花が咲いています。

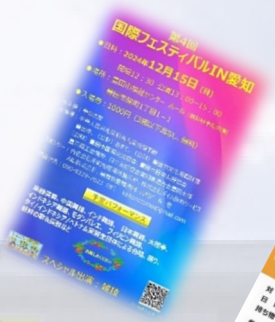
同じ場所の変化

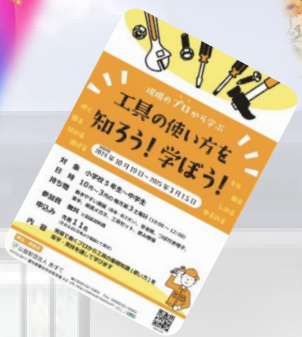
2021 年撮影

2024 年撮影

9 月のあすてらんち

予定





詳しくはあすて HP をご覧ください

https://www.aste-toyota.com

むすび

— 笑顔あふれる明るい未来を目指します —

紡 心をつむぐ あしたを織る

↑HP

2025 年春号 発行　編集発行：公益財団法人あすて　豊田市本町本竜 43　℡ (0565) 52-0362

設立記念日(12/11)を覚えて、あすての意義を確認する日

あすての日

2026 年に 60 周年を迎えるあすてが、なぜ「ものづくり」を事業の主軸においているのか、その意義やこれからの夢について関係者を招いて 2024 年 12 月 8 日(日) にパネルディスカッションが行われました。

〈 テーマ 〉 「ものづくりが築く未来の社会」

〈パネリスト〉◆五十嵐陽二郎氏：Re:made 代表（鳥人間コンテストでの挑戦と日本の町工場の持つ知識、技術、人材の連携を目指す）

◆梅村晋平氏　：豊竹（間伐竹のあらゆる有効活用に挑戦中）

◆白井　博氏　：アイシン（グループ人事本部、アリーナ社会貢献担当）、あすて評議員

◆豊田彬子氏　：あすて理事長

✦✦ 活動紹介 ✦✦

五十嵐：鳥人間コンテスト出場の経緯は、最初は草野球チームだったのが、就職や結婚で人が減り、ものづくりが好きなメンバーが次なる活動を模索するうちに同コンテストに行き着いた。スタートは 2018 年。最初の 3 年間は基本情報の収集と研究など下積み期間。2022 年メンバー33 名(3 名は地元人)、2024 年初出場。「100m 飛ぶ！」の目標に対し、結果は 36.03m（14 位／16 チーム)。学んだことは、「素人でもやればできる」「地元のつながりは大切」金型屋の父の協力を得て、「町工場は知識、技術、人材が豊富で底力がある」と。

梅村：当社は、コンクリートの型枠やトラックの下敷きとして使用する硬くて重たい竹の板を製造。このために竹の一番良いところだけを使用してきたが、竹を 100%使い切るために様々な機関と連携しつつ有効な活用法を探っている。取組み例：①牛の飼料（現在 99%が輸入）②防草 ③舗装 ④豊竹 SOIL（農作に適した肥沃な土）=間伐竹チップ＋微生物【参照 p. 3】

豊田： カローラなど大衆車の大量生産にともなう人手不足で、全国から中学を卒業したばかりの若い勤労者を迎えた高度成長時代の 1966 年に、あすて（旧憩の家）は設立された。親元を離れて淋しさがつのる中で婦人ボランティアがお袋役を担った。やがて彼らは高度な技能・技術を培い、後輩に引き継いで退職し、今度は社会のために技能・技術をいかす時が来ている。その機会と場を提供するのがあすての使命と考え、ものづくりを事業の基軸に置いた。

白井：インドに駐在していた 10 年間は毎日がピンチの連続だったが、成功に切り替えられた秘訣は「リスペクト（尊敬)」。多様性社会においては相手の全てをリスペクトして受け入れることが大事だと学んだ。

✦✦「夢」について一言 ✦✦

五十嵐：日本の町工場の多くが倒産していく中で、その持てる知識、技術、人材を活かせる団体を作って「ものづくりのハブ」としてチャレンジしていきたい。

梅村：竹が道具の材料だった頃は竹林の側に人が住んだが、今はその竹林も荒廃の一途。国は土地の寄贈は受けても竹林は除外するほど厄介者扱い。その竹を枯れたものまで含めて 100%を有効な資源にしたい。

白井：アイシン安城工場跡地に 5,000 人収容の豪華な新アリーナを建設予定。実は愛知県はプロスポーツが盛んな土地柄。子ども達はじめ三河の人がトップレベルのアスリートを間近に見ることで地元に誇りを持ち、新幹線ひかりが三河安城駅に停車するようになって、西三河に人のにぎわいを作りたい。

豊田： 世の中はハイテクになっているが、その基は「人間の手」。あすてはものづくりの基本である「手でつくること」にこだわり、いろいろな技能を持った人たちが集まって知恵を絞りながら笑顔あふれる社会を作っていきたい。

プロの技 伝授します

あすてでは、丘プロマイスター（丘 KOBA プロジェクトのマイスターの略、トヨタグループ及び関連会社ベテラン技能士グループ）がプロの技能を通した社会貢献活動を目指しています。

県内工科高校自動車科 教諭対象に

12/3 県内４工科高校の教諭 11 名技能研修

丘プロマイスターが金 KOBA において自動車部のある豊田、刈谷、小牧、名古屋の 4 工科高校の教諭 11 名対象に実践的な板金の講習を行いました。普段、職人技に触れる機会がない工科高校教諭の皆さんの真剣な眼差しが印象的でした。

12/7, 14, 21 豊田工科高校教諭 6 名が板金、塗装等

丘プロマイスター2 名によってあすてと同じ地域内にある同工科高校の教諭対象に、へこんだ車のフェンダーを教材に「板金、塗装、磨き」の実践的講座（3 回）が行われました。

小中学生対象に工具の使い方「未来学校」全６回

削る・しめる・ゆるめる・はかる・叩く・塗る・切る・曲げる

子どもたちに安全かつ有効な工具の使い方を学んでもらおうと丘プロマイスター6 名が講師となって基本講座「未来学校」が開かれ、小中学生 6 名が参加しました。内容は、①10/19「工具全般の基礎知識」「金属表面の削り方」②11/16「ネジのしめ方・ゆるめ方」 ③12/21 メジャー、スケール、ノギス、テスター

を使った「はかり方」④1/18「釘やダボの叩き方、刷毛の塗り方」 ⑤2/15「紙や針金等の切り方、曲げ方」⑥3/15 学んだことを活かして「集大成」。

マイスターによって毎回充実した内容が組まれ、参加した子どもたちにとっては生涯役に立つ体験と知識を得る機会となりました。

あすて×森のプレゼント×団体
～こども施設に間伐材ベンチを寄贈～

団体より寄せられた協賛金を元に間伐材有効利用を目指すボランティアグループが作成した間伐材ベンチを市内外のこども施設に寄贈しています。

11/6 協賛：（株）豊田自動織機
寄贈先：半田市内保育園
寄贈品：間伐材ベンチ 24 脚

1/29 協賛：豊田西ロータリークラブ
寄贈先：豊田市立永新こども園
〃　寺部こども園
寄贈品：間伐材ベンチ　各 2 脚

国会議員・愛知県知事・県会議員
ものづくり「技能伝承」の現場を見学

丹野衆議院議員（右）大村県知事（下左）、神谷県会議員（下右）が、各々あすてを訪れ、ものづくりによる社会貢献、特に技能伝承活動を見学しました。

厄介者扱いの竹 100%活用が目標！

Collina Naturale（自然の丘）

現代社会においては厄介な存在となってしまった「竹」を枯れたものまで含めた 100%を有効に使おう、という試みがあすて内で行われています。豊竹とコラボして間伐竹チップから農作に適した肥沃な土づくりや舗装、防草の実験中です。

間伐竹チップ＋微生物＝肥沃な土づくり（豊竹 SOIL）

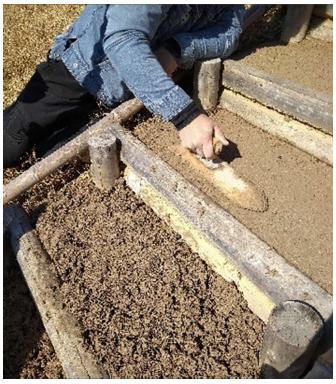
① 11/6：竹 80 本分の間伐竹チップ 2.4t が
テント広場に搬入されました。

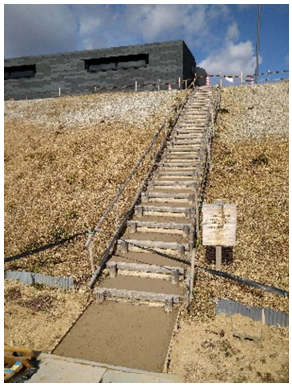
②竹の硬い組織をも分解する特殊な微生物を
噴霧します。

③熟成を促進させるために時々撹拌します。
作業にはボランティアの協力が欠かせません。

④微生物が発生させる熱を体感しました。熟成が
順調であれば 55℃くらいになることもあります。

舗　装





間伐竹チップに土と凝固剤を混ぜたものを塗りならして乾燥させると硬く固まります。歩きやすく、景観もよくなりました。

防　草

雑草の生えている土を取り除き、その上を
間伐竹チップ層（10 ㎝）で覆い、草の発生を防ぎます。

ものづくりの楽しさを感じよう！

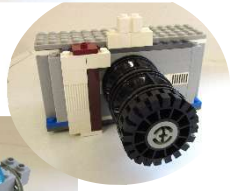
ものづくりリンピック

クルマづくり究める
プロジェクトの子ども達
がレストアした車

ものづくりの楽しさを伝えたい！と、「ものづくりンピック」があすて主催で 3 月 20 日（木・祝）に行われ、750 名が来場しました。あすてのものづくりグループをはじめ、トヨタ自動車、アイシン、豊栄の各社にもブース出展していただき、子ども達が第一線で活躍されている社員の方々とものづくりを楽しく体験する機会となりました。

↓水素ミニ四駆製作 ＆ 試走　　トヨタ自動車

優秀賞
11 歳→



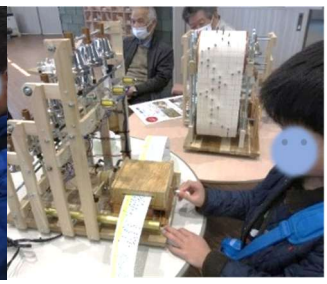
優秀賞
←8 歳

↑ベイブレード製作 ＆ 体験　　アイシン

↑漆喰塗り＆ 手形などアルバム作り　　豊栄

段ボール織り

間伐材カー作り



作って飛ばす！プラコプター　　動きがおもしろい♪からくり作品　　ならしてみよう♪手回しオルゴール

アクセルとブレーキ
踏み間違い装置の説明

竹トンボ作り

シャルマンブラスによる演奏

キッチンカーも出店